

総務大臣感謝状
高梁市消防団



▲感謝状とトロフィーを披露する片山修一団長

高梁市消防団に新藤義孝総務大臣から、消防団員が相当数増加した消防団として、感謝状が贈られました。

全国的に消防団員数が減少する中、団員確保に努めた全国の19消防団に贈られるもので、6月24日に総務省総務大臣室で贈呈式が執り行われました。

高梁市消防団は、団員の減少や仕事の都合で手薄になっている日中の活動を補完するために、平成25年度に機能別消防団員の制度を導入。151人が新たに加入したことが評価され、中国地方5県で唯一の表彰となりました。

高梁市消防団の団員数は、7月1日現在で、1447人。

激励金を交付します

県予選、中国大会等地区予選、国内大会予選、選考会を経て全国大会に出場し、次の要件に該当する人、チームが対象です。※事前申請が原則です。

- ▼市内に住所がある人
- ▼市内の学校、企業等で単独チームとして大会に出場するチーム
- ▼市内に住所がある人で市内外の学校、クラブチーム等へ所属している人
- ▼市内に住所がある人で国民体育大会の要項に記載される監督、コーチ
- ▼その他市長が特別に対象とみなす人

■問い合わせ スポーツ振興課 ☎210425

市内に在住、または市内で活動し、文化やスポーツ活動の全国大会出場、それに準ずる成績を収めた個人・団体の情報があれば、お知らせください。

■問い合わせ 秘書政策課公聴広報係 ☎210210

第6回

◆在宅医療連携拠点事業通信◆

～入院生活や退院後の生活を支える医療ソーシャルワーカー～

今回は、高梁中央病院地域医療連携室主任の脇坂美香さんに「入院生活や退院後の生活を支える取り組み」を中心にお話を伺ってきました。脇坂さんは医療ソーシャルワーカー（以下、MSW）として、入院されているご本人やそのご家族の相談に応じたり、退院後の生活を支えるための調整を行っています。

誰でも急な入院や退院後の生活には不安が募ります。「入院中に使える医療保険や介護保険など、社会制度について知りたい」「病気をして家族に迷惑をかけて申し訳ない」「退院後、家で安全に暮らすためにリフォームをしたいが費用はどうしたらよいか」「退院後、元通り仕事に戻れるのか」など、入院されているご本人だけではなく、そのご家族もさまざまな不安を抱えています。

これらの不安や悩みを少しでも解消するために、MSWは入院されているご本人やそのご家族の希望を受け止めて、医師や看護師そしてケアマネジャーとチームを組み、より良い生活環境づくりを支援しています。

また、MSWは入院されているご本人やそのご家族が希望する治療方法が選択できるよう、治療の内容を分かりやすく説明したり、退院後の生活をできる限り叶えられるように、入院されているご本人やそのご家族の意見を医師に伝えたりします。

「病気になることで困ることはたくさんあります。だからこそ、話を聞いてもらいたいただけでもよいから、MSWに遠慮なく相談してみてくださいね。」という脇坂さんの言葉がとても印象的でした。

【インタビュー】吉備国際大学学生調査隊の小川祥希さん森岡玲奈さん（社会福祉学科2年）

■問い合わせ 保険課連携推進係 ☎210304



地名もあそび

九十五 迫・砂

私たちの住む郷土は、山々に囲まれ、平地に乏しいところで、地形の変化が顕著な山間地帯であります。したがって、地形や地貌を区分して表現する地名が圧倒的に多いのです。それは、地形の変化が複雑で、

誰の目にも共通に映る目印になるから、地名化しやすいのかも知れません。

例えば、高い地形のところでは、岳(タケ)とか、尾根(オネ)・曾根(ソネ)などが…。台地状のところでは、つきやすい所では、崎(サキ)・棚(タナ)などが…。また傾斜地では、平(ヒラ)・坂(サカ)・峠(タウ)などが地名になり、低いところの地名では、川(カワ)・沢(サワ)・谷(タニ)・窪(クボ)とか、沼(ヌマ)・清水(シミズ)などが使われます。平面的な場所では、原(ハラ)・野(ノ)・和田(ワダ)、また、谷が狭まっているような地形のところでは、迫(サコ)・砂(サコ)・狭間(サマ)が人々の会話の中によく使われています。

中でも平地に乏しく、地形が複雑に入り込んだこの地方には、「迫」や「砂」と付いた小地名が多く見られるのです。

高倉町飯部の高谷から大栢を通り、新見市法曾へと続く谷筋に「秋ヶ迫」の地名があります。ここは、小

さな谷に沿って水田が階段状に連なり、江戸時代は飯部村の枝村として「秋迫村」があつて、新見往來の副道が通っていました。

このような「さこ地名」は、山の尾根と尾根に挟まれた窪地で、狭くなつた地形の場所に付けられている地名で、「秋迫」の付近には、ほかにも「堂野迫」「井迫」などの「さこ地名」が残っています。

また、落合町阿部の「藤倉」は、以前「迫田」と言われていたところで、国道313号と成羽川に沿って、両側から山が迫り、地形が狭くなった場所で行けられた「さこ地名」の一つです。

このほかにも市内いたるところに「さこ地名」が見られます。川面町の吉祥寺下の久賀に古くから「穴迫」と呼ばれていたところがあります。

中井町には「西迫道ノ上」「奥西迫」や井戸の谷筋に「大迫」「舟迫」が、津川町八川にも「高下砂(迫)」の地名が見られます。

地形の複雑な川上町、備中町には、

特にこの地名が多く、「西ノ迫」「川迫」「オノ迫」「こころ迫」「大迫」「東が迫」「堂ノ迫」「芋迫」「枝迫」「前迫」などのいたる所に「さこ地名」が見られ、地形の変化が複雑なことを物語っているのです。

「さこ」という地名には、「迫」「佐古」「砂」「狭処」という漢字を当てたり「瀬古」「佐久」などと表現するところもあります。いずれも狭い地形をした場所に使われているのです。

平地に乏しいこの地方では、古くからこういつた狭い河谷や窪を生活の場として、よく利用してきたために、微細な地形の変化に注目し、地形を表現する名称(地名)を用いてきたのです。

人の会話の中で地名を言えば、場所的な特徴がすぐに思い浮かび、印象づけられて、お互いが分かり合えたのです。「さこ地名」は、特に岡山県から西の中国地方と九州地方に多いと言われ、地形を表す自然地名の一つなのです。

(文・松前俊洋さん)



「さこ地名」が残る落合町阿部藤倉付近